

お薬のしおり

No.235 (2022.1)

東京医科大学病院 薬剤部

監修：東京医科大学病院 高齢診療科

認知症と薬

「もしも身近な人が認知症になったら、どうしたらよいのだろうか？」

超高齢化社会といわれる日本において 65 歳以上の認知症患者は約 600 万人（2020 年）と推計されています。2025 年には約 700 万人（高齢者の約 5 人に 1 人）が認知症になると予想されており、身近な人が認知症になる可能性も少なくありません。そこで今回は認知症とその薬について紹介します。



●認知症とは？もの忘れとの違いは？

おとといの朝ご飯は何でしたか？と聞かれたら、皆さんは思い出せますか？ヒントをもらって思い出すことができるなら、これは単なるもの忘れでしょう。認知症の場合は食べたという事実をすっかり忘れてしまい、食べていないと言い張ったり、適当に話を合わせてしまったりすることもあります。

加齢によるもの忘れ	認知症
行為や出来事の一部を忘れる	行為や出来事の全体を忘れる
ヒントがあれば思い出せる	ヒントがあっても思い出せない
もの忘れに対して自覚がある	もの忘れに対して自覚がない
日常生活に支障がない	日常生活に支障がある
日付や季節を間違えることがある	日付や季節がわからなくなる

認知症は脳の病気や障害などの様々な原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。認知症にはいくつかの種類があり、その中でもアルツハイマー型認知症が最も多いと言われています。

●認知症と薬

現時点での認知症治療薬は、主にアルツハイマー型認知症に対するものです。残念ながら現在、認知症そのものを改善する薬はありませんが、薬を使

用することで、症状の進行をゆるやかにできるといわれています。現在日本では、ドネペジル（アリセプト[®]）、ガランタミン（レミニール[®]）、リバスチグミン（イクセロン[®]、リバスタッチ[®]）、メマンチン（メマリー[®]）の4種類の薬が承認されています。これらの薬は、認知症の症状や進行具合に応じて使い分けられています。薬によっては、吐き気や食欲不振、下痢などの消化器症状がおこることがあり、注意しながら使用していきます。

●薬の管理

認知症の患者さんにとって薬の飲み忘れ、飲み間違いは避けては通れません。そこで、継続して内服するためにできる工夫を紹介します。

①一包化

内服のタイミング（朝食後、昼食後など）1回ごとに薬を1袋にまとめる方法です。薬がまとめられているため、何種類かあっても飲み間違いが起こりにくい、シートから薬をいちいち取り出す必要がなくなるなどのメリットがあります。ただし、薬局で薬を一包化するには、若干の費用がかかります。また、もらった薬の飲み方が途中で変わり不要になった薬がある場合、取り除く作業が大変になるといったデメリットもあります。

②お薬カレンダー・服薬ボックス

お薬カレンダー、服薬ボックスとは曜日や日付、時間ごとに仕切りがあり、その仕切りに薬を収納することで服薬の管理をする容器です。壁掛けのカレンダー式のものやプラスチック製などの箱型のものがあり、ドラッグストアや調剤薬局、100円ショップの店頭に並んでいます。この容器を利用し、服用した薬の空袋や殻を元の場所に入れておくと、患者さん本人だけでなく、介護者さんも一緒に薬の服用を確認することができます。

薬の一包化やカレンダーなどを利用することで、患者さん自身で薬を管理することができるのが良いのですが、難しい場合には介護者さんが手伝うこととなります。ただ、介護者さんがすべてを担うと負担が大きくなり大変です。訪問看護やデイサービスなどの社会資源を活用することも大切です。

お薬のことで何か疑問点・不安な点などがありましたら、医師や薬剤師までご相談ください。